

平成21年を振り返って

看護部業務担当参事 鈴木 多恵子

はじめに

1年は早いもので昨年同期が迫り、追い詰められて病院医誌の原稿を作成したことを、思い出しました。業務担当として2年目に入り、自分なりに業務の組み立てが少しずつできるようになりましたが、部下を持たない自分にとって、1年の中で確実に何らかの成果を出さなければと焦る気持ちと、同時に今何が必要で何をしなければならないのか、自問自答の毎日であったと感じています。又、今年は3回目の病院医療機能評価の受審がありました。日頃業務に追われ、なかなか出来なかった看護手順・基準やマニュアルの見直しなどができ、5年に一回のこのような機会は、自分自身や職員全体にも良い刺激となったと思われま

【活動内容】

1) 看護職員職務満足度調査

昨年からの課題でもありましたが、職員が安心して満足できた環境の中で、より質の高い看護が提供できるために、業務改善を目指しました。業務改善を行うためには、実際現場はどのような環境になっているのか、職員がどのような思いで、日々の看護を行っているのか、現状を把握する必要があります。そのために看護職員に対して「職務満足度調査」を行いました。業務担当一人の力では、十分な調査・改善策を見出すことは困難と考え、看護科長会メンバーのご協力を得て実施しました。この調査の目的は、「看護職員が働きやすい職場環境の中で、安心して看護が提供できるために、職員の意識調査し問題解決策を見出し活動する」としました。300名弱の当院の看護有資格者(正職員・臨時職員・パート職員)を対象に、アンケートを実施しました。やはり結果として、図1に示したように、有給休暇が取れない事や週休の消化が十分でなく、その事による疲労感やモチベーションの低下が、不満の原因となっていました。有給休暇や週休の取得は、何らかの業務を改善することにより、解決が見つかることもあります。

又、自分の力を発揮する場の不足や、キャリアアップに対する支援が、不足していると感じていましたが、この項目に関しては、もっと深く原因を追求していく必要があると考え、再度アンケート調査を実施することにしました。働く現場の環境が、職員のモチベーションを上げるか下げるかを、左右すると言うことを痛切に感じ、患者さんにも質の高い看護が提供できるかが問われる事になります。この調査はまだ最終結果が出ていませんが、貴重な職員の声を頂いたのですから、無駄にしないように改善策を、しっかり出して行こうと考えています。又このアンケートは1回だけでは、効果的ではなく1年に1回と言うように、定期的を実施して行く事が今後の課題となります。

2) 医療安全対策委員会看護部会

この委員会は医療安全委員会の下部組織で、看護部独自で活動しています。今年は委員会の会議内容が、マンネリ化されてきていると考え、委員会の中でグループ化して活動することにしました。1グループは各部署から提出された、インシデントレポートに基づき、原因分析し事故防止対策を考えていきました。当初は分析の方法が不明瞭で、推測で分析を行っていましたが、正確な分析方法を用いなければ、各部署が統一した対策に基づき、事故防止ができないと考え、医療安全管理部より分析の方法を、講義して頂き今後活かしていく予定としました。2グループは実際に事故が起きたと仮定した、シミュレーションを行い、ビデオカメラに撮って、事故防止を再確認できるよう、周知していく事にしました。1年かけて作成予定のため、まだ完成はしていませんが、平成22年3月までには完成し、各部署に提供できると考えています。

【次年度の課題】

業務担当は看護部に限らず、広い視野で院内の現状を把握して、常に安全で業務を遂行できる環

各科の現況と展望

境を、サポートしなければなりません。そのためには職務満足度調査実施は、不可欠になります。しかし継続して実施していくには、皆様のご協力を頂かなくてはなりません。又、今年は定期的な部署のラウンドが、実施することが出来ませんでしたので、教育担当参事と協力し合い、定期的

なラウンドを実施し、現状分析・問題点の抽出することで、一つでも多くの改善策を見出し、業務改善に繋げて行こうと考えます。そして患者さんに感謝される看護ができる環境作りを目指します。

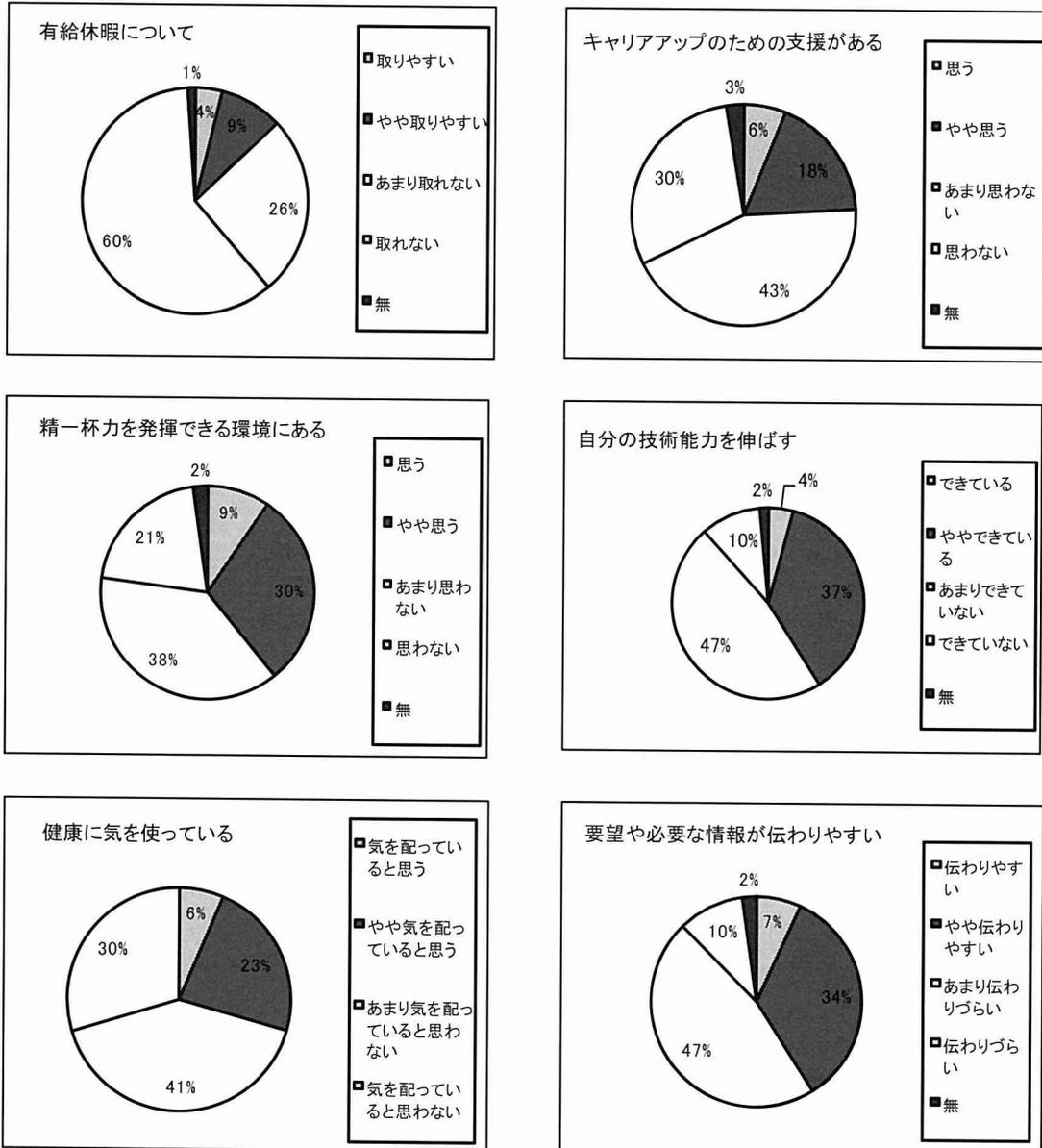


図 1